



▲学校再開について菅野村長が説明を行いました

## 学校再開に向け 教育懇談会開催



現在、村では、飯館村学校等再開検討委員会を発足させ、学校の村内再開に向けた検討を行っています。村は、同委員会へ村内での学校再開時期を平成29年4月からと設定し、諮問を行っています。なお、南相馬市小高区は来年8月、楡葉町は平成29年4月から学校再開が予定されています。

学校の村内再開について、11月19日に保護者との教育懇談会を行いました。

これを受けて菅野村長は、震災直後からの村の状況、村の就学率などを踏まえ、「それぞれの立場や意見を尊重していききたいが、一方で、義務教育の学校がない村は考えられない。村内で再開する時期を決めていかなければ、どんどん難しさが先送りになる。今後も、保護者の皆さんと十分意見交換を行っていききたい」と説明を行いました。村は、保護者の意見を把握するために年内に調査を行う予定です。

## 子どもを思う気持ちは皆同じ

村復興の最も難しい課題の一つである「学校の村内再開」。教育懇談会には、幼・小・中学校の子どもをもつ保護者が約100人集まりました。

参加した保護者からは「今の村教育は素晴らしいので、今の状況を続けてほしい」「村内の除染は本当に終わるのか」「村外に学校を建設する考えはないのか」などさまざまな意見が出されました。

## 飯館村食を考える会便り

### シェフから学ぶ郷土料理

10月19日、同会は福島県特産品を活用した加工食品やメニュー開発を行っている山際食彩工房（会津若松市）を訪れ、研修を行いました。

研修では、同代表でシェフの山際博美さんから、会員が選んだ村の郷土料理について、家庭で簡単にできる調理の工夫などが紹介されました。また、高齢者が身近な食材でタンパク質を摂ることができるメニューが紹介されると、熱心にメモを取る姿が見られました。



▲山際シェフ(左)による調理実習が行われました



▲今回の研修会に参加した会員の皆さん

## 村の味 世代を越えて

郷土料理文化の継承についても活動を行っている山際シェフは、「村の生活に合った郷土料理など、村民の手が覚えている料理の作り方をレシピなどにして残していくべきだろう。伝えていかなければ残らない」と継承活動の大切さを、会員に伝えました。

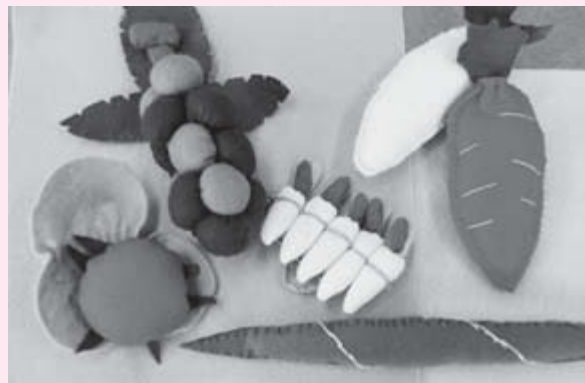
会員からは「村で当たり前に食べていた料理を、次世代に伝えられるように、会としても活動を行っていく」と今後の活動への抱負が語られました。

## 次世代へ「食」の大切さを

会では、「私達の健康は、私達の手で」をスローガンに、村民の健康増進のために、さまざまな食育活動を行っています。

これまで、村主催行事への参加や調理実習を通して村民へ「食」の大切さを伝えてきましたが、今後は郷土料理の継承や若い世代に対する食育にも力を入れていく予定です。

今回の研修で調理したレシピの一部を本紙の21ページで紹介しています。ご家庭でもぜひ、お試しください。



▲子どもたちが「食」に関心をもてるように食べ物のぬいぐるみなども作成中♪

## 国保運営委員として8年 「ご尽力に感謝」

平成19年1月から飯館村国民健康保険運営協議会委員として国保事業の推進にご尽力いただいている菅野一代さん（比曽）に国保浜通り地区部会から感謝状が贈られました。

菅野さんは「震災によって、国保にも多大な影響が出ているが、事務局と連携して今後も取り組んでいきたい」と決意を新たにしていました。



▲今後も活躍が期待される菅野さん(右)

## 教育懇談会で出された意見 交換の一部を紹介します。

**保護者(以下保)・・・**平成29年4月の再開は早いのではないかな。

**村長(以下村)・・・**あと5年も10年も仮設校舎を続けていく訳にはいかないのご理解を。遅れば遅れるほど通学する子どもの数が少なくなる可能性が高いのではないかな。ひとりでも多くの子どもたちが村の学校に通学してもらえようように最大の検討をしていきたい。

**保・・・**村内の除染状況や学校施設の放射線量に不安がある。校舎のリフォームや屋根の張り替えなど、目に見える対応をしてほしい。また、子どもたちに村の豊かな自然環境を感じてほしい。

**村・・・**村内再開に向けその一番の課題が放射線量です。村は国に対して、学校施設の徹底した除染を要望している。村としても線量を下げる努力もする。

**保・・・**現在の村の教育は素晴らしい。この現状を守ってほしいが、村内で再開した際にはどのような教育環境を考えているのか。

**村・・・**現在村が行っている、預かり・学童保育などは継続するように考えている。また、スクールバスの運行については、避難先からの送迎も含めて検討をしている。また、村独自の教育プランを考え、魅力のある学校づくりを目指していきたい。将来的には、小中一貫教育なども検討すべきだろう。

**保・・・**村内で学校施設が再開した場合の給食やケガをした時の対応はどうなるのか。

**村・・・**給食センターを村内で再開する予定。医療に関しては、医療機関と連携し、村内再開の準備をしている。